



島津琉球軍精記

壹

^ 13  
3299  
1





島津琉球

門へ13  
3299  
1

島津琉球軍略紀略之巻



目錄

一 島津家正の琉球略

一 島津家久の琉球略

一 島津家久の琉球略

余磯榮

大正十一年  
本大學出版部



一 家久流砥石代家台令中

并 清津大福寺 伴玉洋定

一 新酒蔵蔵中流砥石代行

并 徳生一式 源定

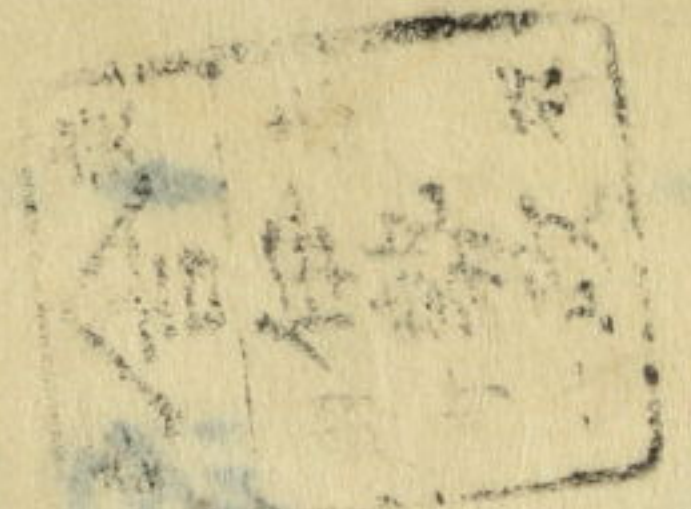
か

一 徳世帯口政敏一式 同言

并 蔵蔵 源定

一 新酒一式 知年流砥石代海

并 吉信 源田流砥石





新納武蔵の軍師あららのうらみ

英号令人扱かうせいのうらみ

依勢常白丸よせのたまきのうらみ

并薩江櫻琉球王さつしやうせいのうらみ

琉球王丸酒造業りゅうきうわんまらぶのうらみ

英新友物えいしんとものうらみ

武蔵一氏むさしのうらみ

英台徳信えいたくしんのうらみ



薩州學流所へ云々  
并 要漢能中城合致

一 要漢能中城合致

并 地世帯口之原而らるる

一 地世帯口之原而らるる

并 守將並水天治所

一 地世帯口之原而らるる

并 地世帯口之原而らるる



一 武蔵守一氏 常白 飛とぬ

并 法将 常白 一人 かんじん 事

一 千里山 高城 孟 永 討 事

并 橋田 常白 永 討 事

一 琉球 王 城 洋 之 事

并 子 親 子 軍 筆 之 事

一 高 市 城 中 浪 中 陽 守 我 の 事

并 法 世 常 白 政 取 事



一 其軍 そのぐん ありし こころ 兵市 へいし 賦 とせし 事 こと  
并新 あたら 納 な 兵 へい 賦 とせ 事 こと 也 なり 先 まづ 律 りつ 事 こと 也 なり

一 兵市 へいし 賦 とせ 事 こと 也 なり

并兵 へい 賦 とせ 事 こと 也 なり

一 種 しゆ 之 の 爲 ため 大 だい 信 しん 礼 れい 節 せつ 事 こと 也 なり

并依 よ 事 こと 也 なり

一 依 よ 事 こと 也 なり

并改 かへ 事 こと 也 なり



一 武藏を西里雲系へうつらるる

并 武藏を龍子家へうつらるる

龍子家

一 武藏を龍子孫家へうつらるる

并 薩州惣收軍のしる

一 武藏を再い年城とせしむる

并 武藏を龍子孫家へうつらるる

龍子孫家

一 武藏を龍子孫家へうつらるる

并 武藏を龍子孫家へうつらるる



一 薩列艦、やうい血戦くわんげんの事  
并 法皇懐妊ほうわうくわんねん御京儀みみやうぎとさる事

一 依勢市カ琉球之部小令事よせいちりゅうじゆのべうせうじゆ

并 武敏智斗ぶみんちう氏系うぢけいの事

一 琉兵系りうへいけい流石川りうせきせん之流戦りうせんの事  
并 新田一徳あらいちのく孝龍かうりゆう子この事

一 琉球王日親りゅうじゆおうひしん之出立いだしだての事

并 横田嘉世よこたけせ王子おうじとす事



一 依世常の如く観る事しんじょう

并 壬辰亥時辰の事みづのえん かい けい じゆく

一 武蔵守格内への座とかる事むさし しのぶ かく うち

并 嘉永二年の事かえい ねん じ

川とる事かわ とる こと

一 薩列傳王城とせしる事さつ くれつ だん じやう じやう じやう

并 林廣津如幡等語載る事はやし ひろ づ ごと ぼん とう ごと じやう じやう

一 軍師一式斗詔の事ぐんし いくしき とう じやう こと

并 種ヶ原大膳少将名譽の事むねがはら だいなん しょう じやう こと



一 足利氏を討つに決意す

兼 高子たかこの兵を率へて入軍す

一 高子たかこが平維小和年の村を討つ

兼 林廣法はやしひろのり也情小治の事

一 中長將劉久知なかながしやうりゅうくちを討つ

兼 陳史人ちんしじんを討つて自殺す

一 王臣おうしん大不おほに後軍ごぐんを討つ

兼 出立いでだて事ことを以て討つ





一 倉橋侍長 くらはしり 侍 さむらい と侍 さむらい の事 こと

一 武蔵守 むさし 常 つね の侍 さむらい と世 よ 傷 きず の事 こと

一 并 な 精 せい 四 し 加 か 少 せう 食 じき 老 らう 軍 ぐん 故 こ の事 こと

一 一 いち 式 しき 寸 すん 智 ち と と 以 い 流 りゅう 球 きゅう と と 保 たも の事 こと

一 後 ご 軍 ぐん 日 にち 預 よ 公 こう 一 いち 流 りゅう 世 せ の事 こと

一 并 な 武 ぶ 蔵 ざう 守 しゅ 大 だい 智 ち 保 たも 計 けい の事 こと



一 ち新子王辰亥をぬきしむ事

并 琉球王統名人不詳事

一 清津家久琉球王不討む事

并 兵庫頭義弘諸府にほり

一 薩州に清津使入母の事

并 武蔵守首領知事

一 家久隆王を討ひ事府の事

并 神皇正統記武官感嘆の事



琉球王統列の徳王と養徳の

并 西朝琉球等結集の

一家久遠を不感状と爲す

并 琉球家長久整治の事

琉球琉球軍統記巻之三

琉球家之統系

人王一石代後湯成院

十三年日向大隅

琉球大隅

琉球

名



秋好無<sup>く</sup>成<sup>ら</sup>ず<sup>ん</sup>に<sup>ん</sup>一<sup>ち</sup>家<sup>か</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て  
 容易<sup>やす</sup>に<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>ん</sup>  
 神<sup>かみ</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>ん</sup>  
 多<sup>おほ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>ん</sup>  
 無<sup>な</sup>き<sup>ん</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>  
 いん<sup>いん</sup>流<sup>りゅう</sup>家<sup>け</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>ん</sup>  
 久<sup>く</sup>徳<sup>とく</sup>と<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>  
 唯<sup>ただ</sup>に<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>  
 法<sup>ほ</sup>和<sup>わ</sup>天<sup>てん</sup>皇<sup>こう</sup>

同<sup>どう</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>ん</sup>

自<sup>こ</sup>他<sup>の</sup>親<sup>しん</sup>と<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>

皇<sup>こう</sup>子<sup>し</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>ん</sup>  
 如<sup>ごと</sup>く<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>  
 即<sup>すな</sup>に<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>

自<sup>こ</sup>他<sup>の</sup>親<sup>しん</sup>と<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>  
 親<sup>おや</sup>と<sup>し</sup>て<sup>ん</sup>



経巻

小経巻一 無名氏法  
經のしり 源氏法  
是のしり

自他經のしり  
福のしりのしり  
のしりのしり  
信のしり

或るしりのしり  
一 経のしり  
任のしり

経巻

経巻のしり  
一 経のしり  
華のしり



預任

御神

物義

將軍に任じ一宗帝に

近代長元元年上総中

平忠孝に任じ

英名大印に任じ

の将あり

おぼのまゝなり

後守府將軍に任じ

冷泉院の御子

日貞に任じ

いんげんに物義に任じ

いんげんに任じ

永承六年に任じ

五年小印に任じ

親曾に任じ

いんげんに任じ

兼家



義家

軍印莫きふ〜威名  
冥系あふ〜

八幡を命陸軍も陸軍府將  
軍少佐に杉又の長官ふ

〜文武の士人源を  
つ〜んのはお外〜道隆院  
府又ふ〜山〜早洲

小島〜名氏家記〜

物〜名氏家記〜

河川院の〜名氏家記〜

姓〜名氏家記〜

名氏家記〜

帝の行状〜

名氏家記〜

名氏家記〜





為義

言ハ對スル

為義の子は為義の陸軍  
為義の嫡子なりと云は  
りし物知しと云ひ也  
の云は流せしと能く  
いふ縁をん歩へし  
平忠盛物と云ひ也

と傳へしと云ふ  
為義の嫡子なりと云は  
りし物知しと云ひ也  
の云は流せしと能く  
いふ縁をん歩へし  
平忠盛物と云ひ也







義朝

高良の信俊と長成  
入道と名をとりて  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに

高良の信俊と長成  
入道と名をとりて  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに



素麻

細く合戦のいふいふ  
後病のいふいふ  
て多額戦場をめぐり  
中野のいふいふ  
代の長田のいふいふ  
代の長田のいふいふ

頼朝

頼朝のいふいふ  
後病のいふいふ  
中野のいふいふ  
代の長田のいふいふ  
代の長田のいふいふ







せんといふは  
多ふといふは  
小指殿といふは  
ほつといふは  
午よといふは  
今といふは  
弟仲といふは  
弟といふは

西海といふは  
将軍といふは  
物といふは  
午よといふは



やうきいさくは年知  
ふしはしきしきしき  
あまのついでに  
しりて下のついでに  
あまのついでに  
将のついでに  
大細を右大將と  
ついでに

右は左かの  
あまのついでに  
ついでに  
と



岩瀬郷左衛

水ノ流ルル所ニ

細流也

時節ノ水ノ心哉

石津流湫軍精也

水



